

## 令和4年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立高齢者総合サポートセンター (かがやきプラザ)	所在地	千代田区九段南1-6-10
-----	---------------------------------	-----	---------------

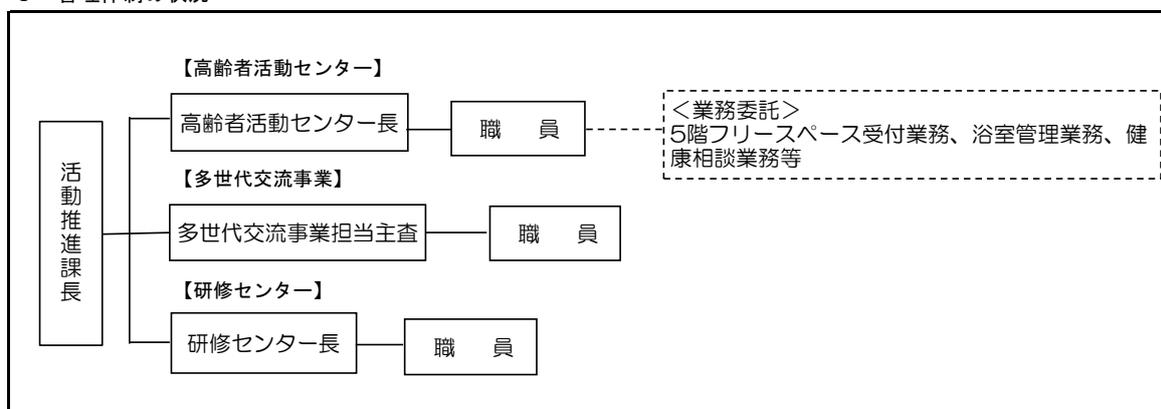
### 1 指定管理者の概要

名称	社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会	代表者	会長 中井 修
所在地	千代田区九段南1-6-10		
指定期間	令和3年4月1日～令和13年3月31日	報告期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 2 管理施設の概要

施設の目的	<p>【高齢者活動センター】 高齢者の各種相談に応じるほか、健康の保持・増進、教養の向上、レクリエーションなど、健康づくりや社会参加の機会をつくり、高齢者福祉の増進を図る。</p> <p>【研修センター】 福祉ボランティア、家族介護者、介護・福祉サービス等従事者のスキルアップ研修、介護と医療の連携を図る研修、介護職の人材確保等を目的とした事業、区民の福祉理解の促進事業を通して、高齢者総合サポートセンターの設置目的である地域包括ケアシステムの推進を行う。</p> <p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】 子どもから大人まで多くの区民の出会いを促進し、人と人がつながり、交流する場を創出する。</p>
管理業務の内容	<p>【高齢者活動センター】</p> <p>(1) 高齢者活動センター事業に関する業務</p> <p>①健康維持増進、機能回復訓練 ②教養の向上、レクリエーション ③健康相談、指導等</p> <p>(2) 施設・設備の保守および維持管理</p> <p>【研修センター】</p> <p>(1) 次に挙げる講習、講座等の開催</p> <p>①ボランティアの育成と活動支援 ②家族介護者のスキルアップ ③介護・福祉従事者のスキルアップ ④福祉知識の普及・理解促進 ⑤介護・福祉人材の育成と就職・復職支援 ⑥介護カウンセリング</p> <p>(2) 閲覧室の管理</p> <p>①利用開放 ②備品・物品の維持管理</p> <p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）!～】 多世代交流の促進</p>

### 3 管理体制の状況



4 事業実績等

【高齢者活動センター】

ア 利用者数実績

	年間開館日	利用者数		利用登録者数	(内新規登録者数)	浴室 入浴者数
			一日平均利用者数			
令和4年度	349日	57,821人	151人	822人	(151人)	16,952人

※令和4年度は、6月末より利用登録更新手続きを再開

	健康づくり事業			ふれあいクラブ	講座等 講座・講習会等	団体支援		季節・レクリエーション	ボランティア活動	見学等	その他施設利用等
	健康づくり事業	機能回復訓練	その他健康事業			長寿会支援	同好会支援・手作り事業				
令和4年度	22,376人	431人	9,943人	858人	3,142人	2,708人	9,471人	312人	1,315人	43人	7,222人

イ 活動事業実績

項目	内容
活動センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かがやき大学前期（24講座56回・延べ1,613名）・後期（全24講座47回・延べ1,197名）・記念講演会（2回101名）、講習会（48回・231名）</li> <li>・ふれあいクラブ（125回・858名）</li> <li>・しょうぶ湯（1回・52名）・納涼会（1回・67名）</li> <li>・ゆず湯（1回、51名）・3年ぶりにサンタがやってくる（1回、11名）</li> <li>・クリスマスコンサート（36名）・ゆず湯（1回、51名）</li> <li>・新春おたのしみ会（1回、36名）・節分福まき会（1回、58名）</li> <li>・オペラミニコンサート（2回、37名）</li> <li>・ビリヤード、卓球、ゴルフご新規day（34回、131名）</li> <li>・動画配信（37回、2,429閲覧数）、脳のトレーニング毎日配信（361回）</li> </ul>
同好会活動支援	・同好会51団体
長寿会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿会各地区例会・誕生会での健康講座等の開催（55回、1972名）</li> <li>・連合長寿会役員会（10回）・連合長寿会のんびりお散歩会（1回、24名）・連合長寿会のんびりバスツアー（1回、45名）</li> <li>・ふれあい福祉まつり（1回、302名）・千代田区福祉芸能大会（1回、115名）</li> <li>・連合長寿会広報紙「はくちょう」発行（年2回）</li> </ul>
ボランティア活動	・ボランティア活動（442回、活動人数1,315名）
PR活動	・月報「のぞみ」発行（毎月）、高齢者活動センター利用案内、高齢者活動センター利用の手引き、同好会の手引きの発行、区報・社協だより等に事業掲載、ホームページで情報発信、YouTubeで脳トレを配信

ウ 施設の維持管理業務

- ・浴室浴槽管理業務（定期点検含む）
- ・5階フリースペース案内受付業務（利用証確認等）

【研修センター】

ア 活動事業実績

(1) 講習、講座等

	回数	のべ参加者数
ボランティアの育成と活動支援	15回	286人
家族介護者のスキルアップ	7回	130人
介護・福祉従事者のスキルアップ	47回	1,064人
区民向け福祉・医療学習	4回	351人
介護・福祉人材の育成と就職・復職支援	6回	158人
介護カウンセリング	23回	37人
協力研修	4回	63人
講座等実績計	106回	2,089人
(2) 閲覧室利用開放（仕様書第1条第2項⑤）日数	335日	—

【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）！～】

ア 活動事業実績

(1) 講習、講座等

	回数	オンライン 閲覧数	のべ 参加者数
チャオチャンネル	25 回	935 回	—
あそび講座	5 回	—	64 人
多世代交流カレッジ	19 回	—	430 人
ひだまりサロン	13 回	—	266 人
協働事業	13 回	—	190 人
その他企画	3 回	—	122 人
ボランティア実績	—	—	240 人
実績計	78 回	935 回	1,312人

5 収支の状況

【高齢者活動センター・多世代交流事業～ちよだで多世代交流Ciao（チャオ）！】

収 入		支 出	
指定管理料収入	117,809,180円	人件費支出	79,822,929円
事業収入	822,900円	施設維持管理費支出	6,116,002円
その他収入	52,000円	事務事業費支出	26,527,211円
合計 (①)	118,684,080円	合計 (②)	112,466,142円
収支差額 (①-②)	6,217,938円		

【研修センター】

収 入		支 出	
指定管理料収入	28,188,480 円	人件費支出	16,876,420 円
事業収入	252,700 円	事務事業費支出	7,239,709 円
その他収入	0 円	合計 (②)	24,116,129 円
合計 (①)	28,441,180 円		
収支差額 (①-②)	4,325,051 円		

【その他（1階総合受付業務、諸室貸出業務）】

収 入		支 出	
指定管理料収入	13,129,000 円	事務事業費支出	13,108,519 円
事業収入	32,000 円	合計 (②)	13,108,519 円
合計 (①)	13,161,000 円		
収支差額 (①-②)	52,481 円		

【総計】

収 入		支 出	
指定管理料収入	159,126,660 円	人件費支出	96,699,349 円
事業収入	1,107,600 円	事務事業費支出	52,991,441 円
その他収入	52,000 円	合計 (②)	149,690,790 円
合計 (①)	160,286,260 円		
収支差額 (①-②)	10,595,470 円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>【高齢者活動センター】</p> <p>①施設運営                      コロナ感染症対策を十分に行った上で、介護予防やフレイル予防事業、季節行事等の充実を図り、高齢者の健康づくり・生きがいづくり・社会参加を充実させ、施設を運営した。(延べ参加者数：57,821名)</p> <p>②同好会活動の支援                      全同好会活動の再開と回数制限の解除により、友人との関わりや同好会活動で、利用者の不安やストレス軽減につながった。また同好会作品展や一部の大会を再開し、活動者の活躍の場づくりを行った。</p> <p>③健康づくり・介護予防                      トレーニングマシンについては、運動指導員がマシン利用やストレッチの指導、理学療法士が理学療法評価や新規利用者の運動プログラムの作成などの役割分担ときめ細やかな対応で実施。また、理学療法士によるスポット体操も希望者が多かったため2部制で実施し、体力改善の強化を図った。(トレーニングマシン：6,736名、スポット体操：262名)</p> <p>④社会参加の支援                      高齢者の社会参加支援としてのかがやき大学は、4～9月を前編、10～1月を後編とした通年講座として、健康やフレイル予防に加え、eスポーツやスマホなど新たなテーマを取り入れ、様々な分野の48講座を対面で実施した。延べ2,911名が参加し、コロナ禍での社会参加の支援を強化した。(全47回、のべ1,050名参加)。</p>	<p>【高齢者活動センター】</p> <p>&lt;収入状況&gt;                      収入予算額 130,141,000円                      収入決算額 128,474,880円                      執行率：98.7%</p> <p>&lt;支出状況&gt;                      歳出予算額 130,141,000円                      歳出決算額 122,274,693円                      執行率：94.0%</p> <p>&lt;分析&gt;                      コロナ感染症対策を行った上で、かがやき大学等の講座も全て対面で実施し、また季節行事などのイベントや同好会活動もすべて再開したため、90%以上の執行率となった。</p> <p>&lt;総評&gt;                      コロナ感染症対策を十分に行ったうえで施設運営・事業運営を行ってきた。今後も千代田区と連絡を密に取りながら、コロナ禍で顕著となった高齢者の閉じこもりや筋力の低下、他者との交流減を解消できるよう、高齢者の介護予防、健康づくり、またデジタルデバインド解消に向けた取り組みや社会参加支援に取り組む。</p> <p>※予算額・決算額は【高齢者活動センター】【その他(1階総合受付業務、諸室貸出業務)】の合算額</p>

<p>【研修センター】</p> <p>①ボランティアの育成と活動支援      学びだけでなく、グループワーク、ボランティア体験の場をつくり、仲間づくりを意識した講座を企画した。「認知症サポーターステップアップ講座では終了後は8名が区のオレンジサポーターに登録した。「介護に関する入門的研修」では、これまで介護と関わりがなかった人が介護の基礎知識を学ぶ機会となり、「地域の見守り・声かけ学習会」では、町会福祉部を中心に町会長や民生・児童委員を含む計47名が参加した。</p> <p>②家族介護者のスキルアップ      コロナ禍でオンライン開催が続いたため、今回は対面ならではのメリットを活かし、体験しながら、技術を学べる講座を中心に開催。認知症VR（バーチャルリアリティ）体験、調理実習、ベッドを使った介助技術等、参加者が実地で学ぶ研修を開催。また、遠距離介護をテーマにした講座も実施した。</p> <p>③介護・福祉従事者のスキルアップ      オンラインと対面を使い分けて開催。毎年要望の高い精神疾患への対応研修、新たな取り組みとして、外国人採用研修、ブランディング、ヘルパー向け調理実習、介護職向けファシリテーション入門等を実施した。認知症ケア研修は、10回のうち9回をハイブリッド形式で開催した。また、eラーニングシステムも活用し、いつでもどこでも研修を視聴できるようサポートした。      多職種協働研修は、対面に戻し、情報交換の時間を多く取り、あらためて顔の見える関係や連携づくりを強化し、49名の参加があった。</p> <p>④福祉知識の普及      福祉への理解を深める映画会は、若い世代が参加しやすいようオンライン開催とし、障がいのある人の日常から障がい理解ができるようドキュメンタリー映画を選択。障害者福祉センターえみふるの施設紹介や手話講座、ボランティア活動情報の動画も同時配信し、理解と参加のきっかけづくりを行った。</p> <p>⑤介護・福祉人材の育成と就職・復職支援      介護のしごと相談面接会を年2回開催。相談面接会前に採用担当者向け研修を実施し、面接会の参加法人職員が短時間で求職者にPRするプレゼンテーションのコツを実践的に学んだ（面接会56名参加・3名が就職）。また、介護職確保を目的とした新たな取り組みとして、「介護職員初任者研修」を開催（1名が就職）。</p>	<p>【研修センター】</p> <p>＜収入状況＞      収入予算額 30,034,000円      収入決算額 28,441,180円      執行率：94.7%</p> <p>＜支出状況＞      歳出予算額 30,034,000円      歳出決算額 24,116,129円      執行率：80.3%</p> <p>＜分析＞      ①介護・福祉人材と就職・復職支援事業の執行率は42.3%であった。これは、介護職員初任者研修を直接開催することにより、修了生を区内の介護施設の就職につなげるための新たな取り組みであったが、申込みが定員に満たなかったため、支出減となった。      ②各種資格取得支援助成事業については、全体として定員より少ない実績であったが、中でも新型コロナウイルスの影響と区内の介護人材養成校の閉校により、介護施設実習受入助成金の実績が少なかったことにより、支出減となった。</p> <p>＜総評＞      新型コロナウイルスの感染拡大の影響も受けたが、オンラインで学べるものはオンラインで実施し、対面で学ぶことに意味がある研修は対面に戻して実施することができた。その結果、オンラインと対面それぞれのメリットを活かした研修の実施につながった。      介護職確保については新しい取り組みを行ったが、期待どおりの成果が得られなかったため、さらに別の事業を企画し、取り組みを行いたい。</p>
<p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Giao（チャオ）！～】</p> <p>①多様な主体との協働による多世代交流      新たな取り組みとして、バリスタボランティアのコーヒーサロン×チャオの哲学カフェでは、講師の的確な促しにより、中学生から80代までが円になり、哲学対話を行った。また、コロナ禍によって活動を休止していたバリスタボランティアによるコーヒーサロンを同時開催した。      上智大学、明治大学、法政大学、国際ボランティア学生協会（IVUSA）の大学生の持ち込み企画では、学生ならではの賑やかな交流が生まれ、多くの多世代の参加があった。（「チャオのボードゲーム交流会」、「わくわく電車タイム」、「大学生とピアノタイム」など計13回、参加者のべ190名）。      イタリア、スペイン、メキシコなど、区内の大使館や外国文化施設、芸術系のNPOと連携し、多世代が集まって異文化体験や芸術体験をする企画も実施した。</p> <p>②多世代交流に関わるボランティアの養成と協働      「多世代でつながる子どものあそび プレイワーカー養成講座はじめの一步」や「ポッチャサポーター養成講座」など、住民が多世代交流に主体的に関わるための講座を実施した。ふれあい福祉まつりでの参加や「チャオのみちあそび」など、具体的な活動にも結びついた。また高齢者活動センターのボランティア（企画運営サポーター）とともに、ひだまりサロンの運営や企画を行った。（活動回数51回、ボランティアのべ240名）</p>	<p>【多世代交流事業～ちよだで多世代交流Giao（チャオ）！～】</p> <p>＜収入状況＞      収入予算額 3,418,000円      収入決算額 3,370,200円      執行率：98.6%</p> <p>＜支出状況＞      歳出予算額 3,418,000円      歳出決算額 3,299,968円      執行率：96.5%</p> <p>＜分析＞      月平均5～6回の多世代交流事業を開催してきたが、その多くは大学生や地域住民のボランティアとしての協力や参加による実施となり、計画以上の事業実施につながった。</p> <p>＜総評＞      コロナ禍を受け、住民自身が地域のつながりを作ることの大切さに気づき、活動が生まれた。そして、つながりが必要とする住民に向けて多世代交流の場を開き続けるために事業を積極的に実施した。感染防止のために定員の制限や事前申込制にせざるを得ない状況ではあったが、講師やボランティアの積極的な働きかけにより、にぎやかで豊かな交流事業が数多く生まれた。</p>

## 7 区としての評価・今後の方向性

高齢者活動センターではコロナ禍のもと、安全に配慮しながら全同好会の活動や作品展・大会を再開し、利用者の活動の場づくりを広げた。また、かがやき大学ではeスポーツなど新たなテーマを取り入れたカリキュラムに挑戦している。研修センターでは対面・オンラインを使い分け、ボランティアの育成において仲間づくりを意識した講座につなげている。また、多世代交流事業では大学生の持ち込み企画等、学生や地域住民の企画への参画を促進させている。

今後は引き続き安全に配慮し、高齢者の社会参加、介護者のニーズに則した運営を行ってほしい。

## 8 今後の指定管理に区が期待すること

引き続き、利用者の安全に配慮した施設・事業運営を徹底してほしい。良い内容の事業を多数実施しているものこれらの事業の認知度が伸び悩んでいることから、周知方法を工夫し認知度・利用者の増を図って欲しい。区民のフレイル対策への関心が高まっており、これに対応する高齢者の心身の健康増進に向けた更なる取り組みにも期待する。